

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	基礎デザイン実習A		
科目基礎情報						
開設学科	デザイン科	コース名	グラフィックデザイン科	開設期		
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数		
単位数	2単位	開設時間		授業形態		
教科書/教材	必要に応じ参考資料を画像で添付。参考書は必要としないが、学生が求める場合は推薦参考書を紹介する。					
担当教員情報						
担当教員	中田和彦	実務経験の有無・職種	有・画家			
学習目的						
基礎素養となるデッサンを行う。複数回の作品制作を行う中で、イメージを形にする描画力を養うことはもとより、デザイナー、クリエイターとして必要不可欠である感受性を高める点に重点を置く。題材に向き合う姿勢と、完成度を高める制作プロセスを日々の制作から習得する。如何に学生一人一人が自分の感度を高め作品制作に臨み、審美眼を備え創作できるか。五感を刺激する題材を用い感覚に働きかけ、三次元の世界から得られた情報を如何にして表現に結び付けるかを模索できる応用力の高い人材を育てたい。						
到達目標						
まずは道具、素材に慣れ、正しい姿勢で制作に臨めること。そして基本形態を利用し正確な形を捉える観察力、明暗の観察、立体表現をマスターする。応用モチーフでは基本形態で習得したことをベースに、物の特徴、固有色や質感表現に至るまで、より完成度の高い作品を作る。講評会による作品発表の場を設け、作品鑑賞における視点を学び、自身の課題を省み、また他者の作品から刺激を享受することまでを一つの課題の帰着点としたい。						
教育方法等						
授業概要	今回、在宅実習での授業を試みることとなる。授業動画配信による課題説明、動画配信の利点を活かし制作手順のデモンストレーションを行う。限られた環境の中で、可能な限り双方向での授業対応ができるよう、途中段階でのアドバイス、作品講評会を行い、次課題への目標を明確に持たせる。					
注意点	在宅実習で行うことが可能な課題、入手し易い身の回りの家庭用品などをモチーフに課題を行う。写真に撮影したものを見ながら制作を行なわせないよう注意したい。きちんとモチーフと向き合い、緊張感を持ち、それにより高められる題材への感受性を知り、“描く喜び”は“観る喜び”と通底していることを広く学生には体験してほしい。					
評価方法	種別	割合	備 考			
	課題	100%	基本的には提出課題の得点で評価。実習に参加していても課題提出がない場合は評価しない。			
授業計画（1回～15回） 1回（ ）時間 ※45分を1時間とする						
回	授業内容	各回の到達目標				
1回	「グレースケール」	道具説明 鉛筆の硬さの種類と階調表現				
2回	「ティッシュ箱を描く」前編	制作姿勢 プロポーション パースペクティヴ				
3回	「ティッシュ箱を描く」後編	文字のレタリング 箱の陰影表現				
4回	「トイレットペーパーを描く」	透視図で把握する円柱体の構造 楕円の変化 円柱体の陰影表現				
5回	「缶を描く」前編	輪切りライン 曲面への文字のレタリング				
6回	「缶を描く」後編	金属の質感表現				
7回	「卵を描く」	透視図で把握する球体の構造 球体の陰影表現				
8回	「野菜・果物を描く」	物の固有色と質感表現				
9回	「静物」前編	構図 複数モチーフにおける関係性				
10回	「静物」後編	空間表現				
11回	「手を描く」	人体表現 手の骨格 立体表現				
12回	「家族を描く」	人体表現 クロッキー				
13回	「自画像」前編	人体表現 顔のプロポーション 顔の陰影と立体表現				
14回	「自画像」後編	顔のパーツの構造 固有色の違いと質感表現				